

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	5	0	7	5	9	15	20	4	7	総調査ほ場数: 63か所 総調査株数: 1,575株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	7.9	0.0	11.1	7.9	14.3	23.8	31.7	6.3	70.0	
	平年値	4.0	0.0	18.8	4.3	14.5	27.5	24.1	20.3	46.8	
	(本年平均値/平年値) × 100	197.5	-	59.0	183.7	98.6	86.5	131.5	31.0	149.6	
株率 (%)	発生株数	0	0	49	5	23	122	20	4	162	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病は例年より多くのほ場で発生がみられています。 ・萎黄病は平年と比べ多い状況です。 ・うどんこ病の発生は平年並みです。 ・ハダニ類は、発生ほ場率は平年並みですが、ほ場間で発生量の差が大きい傾向があります。 ・開花の早いほ場では、アザミウマ類の発生がやや多い状況です。
	本年平均値	0.0	0.0	3.1	0.3	1.5	7.7	1.3	0.3	4.1	
	平年値	0.1	0.0	4.2	0.1	1.9	7.8	1.8	1.7	2.3	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	-	73.8	300.0	78.9	98.7	72.2	17.6	178.3	
概 評		平年並	少	平年並	多	平年並	平年並	平年並	やや少	やや多	

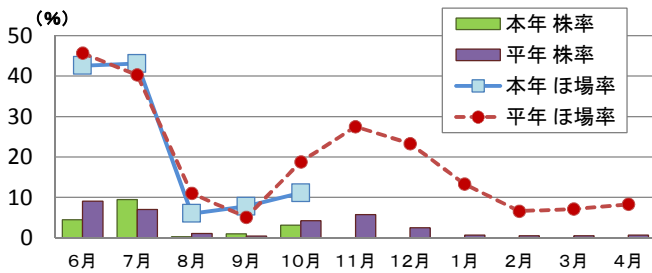


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

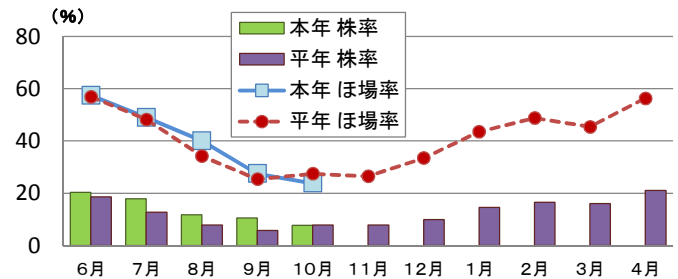


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

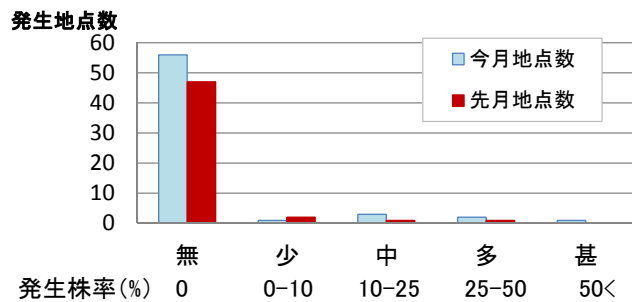


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

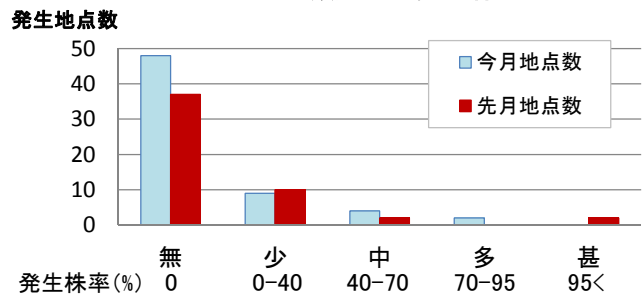


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・予防を主体にアフェットフロアブルやタフパール等を散布し、発生が見られたらトリフミン水和剤やガッテン乳剤等で防除する。

○ハダニ対策

- ・マルチ後は乾燥により増殖しやすくなるため注意する。
- ・下葉に多く寄生するため、葉かき後に薬剤散布することで防除効果が高まる(葉はほ場外に持ち出し処分)。
- ・天敵を放飼する前に、必ず一度防除をしてハダニの密度を下げる。



写真1 アザミウマ類被害果

○今月の技術情報(技術指導班)○(10月)

- ・8月下旬以降、気温が下がり、花芽分化はやや前進傾向となりました。作型によっては生育がやや遅れ気味のほ場も見られますが、定植後は多日照で推移したため、全般的に順調な生育になっています。
- ・育苗期間中から県内全域で炭疽病の発生が見られました。定植後は、炭疽病に加え、萎黄病の発生も見られるようになりました。今後、マルチングや保温開始に伴い、地温の上昇や着果負担により、さらに発症する恐れがあります。これらの病害の発生を見つけた場合には、直ちに抜き取り、処分してください。
- ・また、気温の低下とともにうどんこ病の発生が懸念されます。害虫では、引き続きハダニ類の発生が多い傾向にあるとともに、早出し作型ではアザミウマ類の発生がやや多い状況です。保温開始までの徹底防除を心がけましょう。
- ・スカイベリーではアブラムシの発生が散見されます。早期防除を心がけましょう。
- ・本年は、気温の低下が早めの傾向にあります。株の充実不足、生育停滞にならないよう、ハウス内の気温や水分をこまめに確認し、適正管理を心がけましょう。